

韓国主要産業の競争力

－研究会中間成果報告－

奥田 聡 編

2007年3月

独立行政法人 日本貿易振興機構

アジア経済研究所

はしがき

本調査研究報告書は、平成 18（2006）年度に実施された「韓国主要産業の競争力—21 世紀における与件変化への対応」研究会（課題番号：4-12）の 1 年目成果である。

韓国の一人当たり所得は 2 万ドルに接近したが、経済成長は頭打ちの傾向を強めている。その中であって、国民が求める質の高い生活を維持するために国際競争力をいかに維持・強化するかが現在の韓国に与えられた課題である。経済の成熟化をにらんで、韓国の主要産業はどの方向に進むのか。世界市場で名を馳せる企業も輩出されるようになり、韓国主要産業の動きは日本など周辺諸国に少なからぬ影響を与えるようになっている。

本研究会では、韓国の主要産業の競争力について、生産性、貿易などの伝統的な尺度のほか、それら結果をもたらした生産技術、市場戦略、政策対応などを含めて俯瞰することを目指している。1 年目には、各委員の報告と議論を行ったほか、海外調査部中国北アジア課の百本和弘課長代理からは有益な報告を頂戴した。委員・オブザーバーの各氏、そして百本氏の研究会運営への多大なる協力に対してこの場を借りて謝意を表したい。

本報告書では具体的産業として自動車、半導体、機械、鉄鋼、金融を取り上げ、2 年目の本格的研究に向けての予備的な分析を行った。また、産業政策、そして産業全体を俯瞰する競争力分析も取り入れてある。

本報告書は中間成果であり、多くの課題が残されている。2 年目研究会において引き続き調査研究を進め、議論を深めて行きたい。

2007 年 3 月
編者

目 次

第1章 韓国自動車産業の発展パターンと競争力構造	金 奉吉	1
はじめに		1
第1節 韓国自動車産業の発展パターン		2
第2節 韓国自動車産業の競争力構造		10
第2章 韓国半導体産業の競争力		
—DRAM 事業の変化とサムスン電子の優位—	吉岡 英美	19
はじめに		19
第1節 半導体市場におけるサムスン電子の競争力		21
第2節 DRAM の開発競争の新展開		24
第3節 次世代 DRAM アーキテクチャをめぐる競争とサムスン電子の優位		28
第4節 DDR アーキテクチャの普及をめぐる競争と協調		35
おわりに		38
第3章 貿易関係より見る韓国機械産業の競争力		
—対日・対中を中心として—	服部 民夫	49
はじめに		49
第1節 「組立型工業化論」再論		50
第2節 日韓中の工業品貿易の展開		52
第3節 日韓、韓中の機械類貿易		57
第4節 自給度の変化		68
おわりに		72
付論 韓国企業の対中進出		72
第4章 韓国鉄鋼業の発展と競争力	安倍 誠	85

はじめに	85
第1節 韓国鉄鋼業の発展過程	86
第2節 韓国鉄鋼業の需給・貿易構造	92
第3節 韓国鉄鋼業の競争力と新たな展開—日本との競争と協調	97
むすびにかえて	104
第5章 構造改革以降における韓国金融産業の変化	
—一般銀行を中心に—	高安 雄一
はじめに	109
第1節 金融構造改革前後における銀行の変化	110
第2節 金融構造改革前後における銀行の体質変化	117
まとめ	126
第6章 韓国の価格競争力と技術競争力	
—産業競争力の類型別要因分解—	奥田 聡
はじめに	131
第1節 韓国経済における輸出の重要性	133
第2節 産業競争力の類型化—輸出入単価と輸出入差額を用いて	136
第3節 韓国主要産業の競争力	143
第4節 先進国と途上国による挟撃	157
第5節 まとめと結論	161
補論 輸出入単価の計算について—詳細品目の商品交易条件の活用	163
第7章 産業競争力強化に向けた政府支援策の展開と現状	渡辺雄一
はじめに	173
第1節 産業政策と技術政策の展開	175
第2節 近年の技術開発支援策	182
おわりに—実証分析に向けて	188

執筆者紹介

奥田 聡	地域研究センター東アジア研究グループ長（主査）
金 奉吉	富山大学経済学部教授
吉岡 英美	九州大学大学院経済学研究院助教授
服部 民夫	東京大学大学院人文社会系研究科教授
安倍 誠	新領域研究センター技術革新と成長グループ（幹事）
高安 雄一	内閣府国民生活局総務課調査室長
渡辺 雄一	地域研究センター東アジア研究グループ